

地 域 と 医 療 で 咲 く コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン

2016

3月

No.22

あまが咲

 兵庫県立尼崎総合医療センター

だより

【部門紹介】

栄養管理部

おいしく♪ 楽しく♪ 真面目に！

治療効果の高い栄養管理を目指します。



【診療科紹介】皮膚科／眼科

●尼崎民間病院協会理事（園田病院 院長）からの“ひとこと”

●スタッフのつぶやき ●大規模災害対応訓練を実施！ ●ぶらり～っと病院探訪

部門紹介 栄養管理部

おいしく♪ 楽しく♪ 真面目に!

治療効果の高い
栄養管理を目指します。

栄養管理部課長

川脇 恵



栄養管理部では、18名の管理栄養士・栄養士と調理師27名が一丸となり、「安全でおいしい患者給食」・「楽しく体験できる栄養指導」・「治療に貢献する細やかな個別栄養管理」を提供するために日々頑張っています。

栄養管理部門では、きめ細やかでスピーディーな栄養管理を実施できるよう各病棟に担当管理栄養士を配属しています。また、チーム医療にも積極的に参加し、NST(栄養サポートチーム)等で、栄養の専門家として治療に貢献しています。

給食管理部門では、関西圏の病院では初の新調理機(VCC)を導入し、治療効果の高い、それでいておいしい給食を提供しています。

●選択メニューの提供

病棟内タッチパネルより、洋風ステーキ御膳(右下写真)等、選択メニューをお申し込みいただけます。(追加料金が必要です)

●調理実習の実施

糖尿病患者さんを対象に、院外の調理実習室で手軽にできるお総菜やデザートと一緒に作りながら、治療食調理のコツを楽しくおぼえていただきます。(材料費が必要です)

●外来通院治療食の提供

当院が提供している減塩食等の入院治療食を、外来患者さんや患者さんのご家族に、集団栄養指導の際に召し上がっていただき、実際の治療食の味や量などを体験していただきます。(食事料が必要です) ※詳しくは院内の案内等をご覧ください。



▲洋風ステーキ御膳

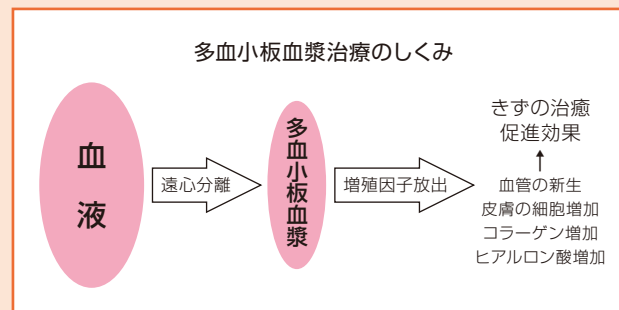
皮膚科

高度な治療、先進的な治療に取り

皮膚科と言えば、見て診断し、塗り薬で治療する、というイメージが強いと思いますが、当センターでは、地域の医療機関と連携し、高度な治療、先進的な治療として、従来からの生物学的製剤治療、免疫グロブリン大量療法、血漿交換、持続陰圧吸引療

「難治性皮膚潰瘍(なおりにくいきず)に対する多血小板血漿治療」とは？

血液中の血小板は、止血が本来の働きですが、多種の成長因子を含んでいます。血液を遠心分離して血小板を濃縮した多血小板血漿を作成し、きずを覆って治療を促進するのが多血小板血漿治療です。第三種再生治療に指定されており、実施には認定再生医療等委員会での審査と国への届出が必要です。2月に当院から近畿厚生局への届出が受理され、実施可能になりました。対象は、従来からの治療では治りにくい潰瘍の方です。



対象とする疾患

- 皮膚腫瘍(良性および悪性(皮膚がん))
- 湿疹、接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎
- 皮膚感染症(蜂巣炎、带状疱疹、白癬など)
- 皮膚潰瘍(治りにくいきず)
- 自己免疫疾患(膠原病、水疱症、脱毛症)
- 薬疹
- 乾癬

眼科

最高水準の診療であらゆる眼疾患に対応し、高いクオリティーオブビジョンを目指します。

眼科科長

宮崎 千歌

日本眼科学会認定
眼科指導医、眼科専門医
光線力学的療法認定医
涙道涙液学会理事
兵庫県東部眼科医会理事
尼崎市眼科医会理事



眼科科長

王 英泰

京都大学医学博士
日本眼科学会認定 眼科指導医、眼科専門医
光線力学的療法認定医
兵庫県東部眼科医会理事
尼崎市眼科医会理事



組んで、重症、難治疾患に対応します。

関では困難な検査や治療の方に重点を置いています。

法などに加え、新しい抗がん剤によるメラノーマ治療や第三種再生医療の「難治性皮膚潰瘍に対する多血小板血漿治療」を開始しています。



工藤 比等志(皮膚科科長)
湊 はる香(皮膚科医長)
奥野 愛香(皮膚科医長、3月末退職予定)
岡田 佳与(皮膚科医長、3月着任予定)
八木 久実(皮膚科専攻医、4月着任予定)
趙 玲 愛(皮膚科非常勤医師)

皮膚科科長

工藤 比等志

京都大学医学博士
京都大学臨床教授
日本皮膚科学会専門医
兵庫県皮膚科医会幹事

白内障、緑内障などの一般眼科に加え、伝統の網膜硝子体疾患や涙道疾患など近隣施設ではあまり対応していない領域についても、専門的な診療や治療を行っています。

最新式の眼底像撮影装置(OCT)などの検査機器や27G硝子体手術システムなどの最先端の手術機器で常に高水準の診療ができるよう心がけています。

前列左から:竹谷医師、宮崎医師、王医師、廣瀬医師

後列左から:前田医師、内海医師、長谷川医師、平島医師、佐藤医師、布谷医師、萩原医師



眼科の紹介

網膜硝子体疾患の診断と治療

μm単位の画像診断が不可欠で、網膜硝子体のみならず脈絡膜までも網羅する画像診断が可能な最新式の高深達OCTを県下でいち早く導入しています。

低侵襲手術

極小切開で低侵襲の27G硝子体手術を県下で最も多く施行しています。

涙道診療

涙道内視鏡、鼻内視鏡と使った最新の涙道診療を取り入れ、涙嚢鼻腔吻合術の件数は、全国一です。毎日の外来診療、手術治療が可能です。

斜視弱視診療

長期にわたる指導、経過観察が必要な患者さんも多く、小児診療においては家族の心の支えにもなっています。

対象とする疾患

加齢黄斑変性

抗VEGF療法や光線力学的療法との併用などで難治症例にも対応。

黄斑円孔、黄斑上膜 最新式の極小切開硝子体手術で治療。

裂孔原性網膜剥離 極小切開硝子体手術や強膜バックリング法での治療。

網膜下血腫

ガス注入法で改善しない場合には、極小切開硝子体手術で早期に血腫除去を図り視力への影響を少なくすることを目指します。

小児涙道疾患

小児涙道疾患の診断・治療へ涙道内視鏡と鼻内視鏡の積極的な導入。
局所麻酔では診療不可能な症例には、日帰り全身麻酔での診療。

斜視弱視疾患 小児、成人共に眼鏡装用等の指導、必要に応じて手術治療を施行。

眼瞼疾患 眼瞼下垂、眼瞼内反症等の手術治療。

眼瞼痙攣、顔面痙攣 ボトックス注射治療。

県立尼崎総合医療センターへ



兵庫県立尼崎総合医療センターと 尼崎の民間病院の関わり

尼崎民間病院協会理事（園田病院 院長） 橋本 創さん



平成27年7月に兵庫県立尼崎総合医療センターが開院して8ヵ月が経ちましたが、順調な滑り出しに心よりお慶び申し上げます。

730床を有する高度急性期病院が尼崎市にあるということは、尼崎市の民間病院におきましても心強いはずです。尼崎市には22の民間病院がありますが、急性期、回復期あるいは慢性期機能を有している病院がありそれぞれに尼崎総合医療センターと連携をとっていると思われます。また、尼崎市の民間病院は病床数が100床前後の小規模の病院が多く、自院において対応困難ながんや循環器疾患などの患者さんの受け入れ先として尼崎総合医療センターがあるという安心感があります。一方で、尼崎総合医療センターでの治療後さらに療養やリハビリが必要な患者さんの受け入れ先として連携しています。

さて、尼崎市を含む阪神間では平成27年4月より医療IT情報システム「*h-Anshin* むこねっと」の運用が始まっています。「*h-Anshin* むこねっと」患者情報共有システムを利用することにより、尼崎総合医療センターと民間病院が患者さんの診療情報をリアルタイムに共有することが可能となり病連携の強力なツールとなっています。今後ともこのシステムを維持、強化していければと願っています。

一方で、「*h-Anshin* むこねっと」二次救急システムは、救急患者の応需情報をリアルタイムにネット上で得ることができるシステムです。救急隊は現場でこのシステムにアクセスすることにより救急患者さんの病状に対応できる医療機関に迅速に搬送することが可能となりました。多くの民間病院が、このシステムに参加し市内の救急患者に対応しています。しかし、重度の熱傷、多発外傷など三次救急患者や複合的な疾患を有する高齢救急患者は中小の民間病院では対応困難なことが多く「最後の砦」として尼崎総合医療センターが診療機能を発揮して対応していただければ、民間病院は安心して日常の二次救急診療に従事できると思います。

現在、地域医療構想の下で病院の機能分化が進められています。すなわち、全ての病院が高度急性期、急性期、回復期ならびに慢性期に区分され、2025年に向けて二次医療圏ごとに、地域の人口や高齢化率をもとにして病床数を決定する計画です。阪神南圏域では、2025年まで人口規模は概ね維持されるものの高齢化率はさらに高くなることが予想されています。民間病院は、マンパワーの面、資金力の面から高度急性期機能を担っていくのは困難です。尼崎総合医療センターは、阪神南圏域の高度急性期機能を有する兵庫医大病院、関西労災病院ならびに県立西宮病院とともに機能を分担しつつ、高度急性期機能を維持していただきたいと願っています。

スタッフの
つぶやき

電話交換手さん達って…!?

尼崎総合医療センターの声の玄関口

こんにちは。 私達は、尼崎総合医療センターの声の玄関口となる電話交換です。
1日の平均電話本数が1200本という中でなかなかつながらず、ご迷惑をお掛けしています。
電話交換では、患者さん、他の病院、業者さん、役所関係… 挙げるときりがない程、多種多様な電話の取次ぎを行っています。電話の取次ぎ以外にも院内放送・電報の打電と言った業務もあります。顔（表情）を見ずに内容を聞き取り、伝えるというのはとても難しいことなのでどんな時も様々な問い合わせに丁寧に誠意ある対応と笑顔を心掛けています。『笑顔?!』と、思いましたか？ 表情が声に出るんですよ!!

“声”って奥が深いんです。これからも、笑顔が見えるような電話対応を心掛けていきます。



兵庫県災害拠点病院としての役割

尼崎総合医療センターにて、大規模災害対応訓練を実施！

2月21日当センターにて、尼崎市消防局と伊丹市消防局の協力をえて、『日曜日の朝、国道43号線で大型バスと大型トラックを含む多重衝突事故が起き、多数の負傷者が発生』と言う災害想定のもと大規模災害対応訓練が行われました。



①迅速な災害初動体制の立ち上げ、②多数の被災者への受入れ対応、③院外の職員の招集が、今回の訓練目的です。

負傷者役でご協力いただいた消防学校・看護学校・医療福祉専門学校等の皆さんには、お礼を申し上げます。

ぶらり〜っと 病院探訪

安心・安全な医療を支える縁の下の力持ち

物品管理センター

円滑な
物品供給を
目指した
管理システム



今 回は二階のバックヤードにある物品管理センターを訪れ、お話をお聞きしてきました。

ここには25〜30名のエム・シー・ヘルスケアという会社の方がおられ、院内で使用する医療器具・薬品・日用品・事務用品等の管理を中心に、院内の業務を総合的にサポートしてくださっています。バーコードを用いた定数管理が行われており、使用した時にSPDという管理システムへ請求し、その情報をもとに物品供給が行われています。

エンドユーザーである患者さんが、よりよい医療を受けられるようにサポートすることを心掛けておられ、そのために、物品がきちんと定数通りあるかを部署ごとにチェックする定数管理を怠らないように気を付けていると話しておられました。また、薬品配送の面では、特に注意して間違いがないかを確認し、病棟に届けるようにしていると話しておられました。

時には、「どうしても明日までに欲しい」など、無理な願いをされることもあるようで、医療従事者である私たちは、物品管理センターの方を困らせないように、足りない物がないかを定期的にチェックし、早めに発注するべきだと感じました。そして、患者さんが安心して医療を受けられる環境をつくっていききたいです。



編集後記

もうすぐ春ですね♪ 桜の開花が待ち遠しい季節となりました。
卒業式、送別会… どうしても別れのイメージをもちがちですが、実は次のステップへの出発式です。新たな門出に向かってGO！ 尼崎総合医療センターも次に向かってGO！（F.S.）



兵庫県立尼崎総合医療センター

Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center (Hyogo AGMC)

〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町二丁目17番77号 TEL 06-6480-7000(病院代表) FAX 06-6480-7001

URL: <http://agmc.hyogo.jp/>

兵庫県立尼崎総合医療センター

検索